

日中の企業が組んで世界へ



宮本アジア研究所
代表 宮本雄二さん

中国が大発展を遂げた要因とは。
日本企業は中国市場にどう挑むべきか。
宮本雄二 元駐中国大使に聞いた。

反腐敗に本気度が表れている

—— 習近平政権をどうぞ覧になられていますか。特色は？

長期政権への足場を固めた習近平氏ですが、まだ成功の保証はありません。習主席はこれまでの指導者が口にすることの少なかった「強い中国の復興」を前面に打ち出しました。奇跡の経済発展を実現したからこそ、ポスト鄧小平の新時代のビジョンを示したのだと思います。江沢民や胡錦濤は、鄧小平の構想の実現に向けてやってきました。これに対し、習近平は過去の延長ではなく、自身の構想—— 新たな夢と目標を掲げ、何をすべきかを明確にしています。まさに新たな転換期の指導者です。

構想はでき上がった。政策もほぼできつつある。あとはどう実施するか。清廉で効率的な官僚機構が欠かせないからこそ、反腐敗を強力に進めている。ここに、彼の本気度が表れていると言っているでしょう。しかし大変な難事業であることもまた事実です。

—— 習近平氏を以前からよくご存知とか。

最初の接点は、2007年、習氏の浙江省時代で、その後3度食事を共にしました。彭麗媛^{ほうれいえん}夫人ともご一緒したことがあります。彼は大らかで太っ腹な人物です。会議の席では部下に自由に発言させていました。普通の中国の指導者には見られませんが、この「大きさ」は大事な資質だと思います。

政治が関与しなければうまくいく

—— グローバルにネットワークを広げる「一带一路」が実現する可能性は？ 障害があるとしたらどういったことでしょうか。

日本人と中国人の最大の違いは何だと思えますか？ 日本人はやる前にあれこれと議論をする。議論だけして何もしないことも山ほどあります。やっつけていいことしかやらず、いちいち官の意向を^{そんたく}忖度して動くへんてこな社会ですよ（笑）。

これに対し中国人はまずやってみて、やりながら考える。習近平は「絶え間ない創新」と言っています。一帯一路もそうです。「大きいところはこうだ」と示しておいて、あとは皆で考えやってみながら発展させる。でき上がった結果が最初に考えていたことと違ってかまわない。これが中国共産党のやり方なんです。

やってみて、間違っていたら訂正する。江沢民の「西部大開発」や胡錦濤の「ユーラシアランドブリッジ計画」もそうでした。一帯一路は中国と欧州という先進国同士をつないで、間にある中央アジアを始め後発経済の国々を発展させ、開かれた自由な経済地域をつくらうというものです。コンセプトをつくりあげたところですが、変容しながら完成に近づいていくに違いありません。

最大の障害は政治ではないでしょうか。経済は国民に任せておけばうまくいくんです。ところが、政治が関与するようになると、政治が乱れたら経